



# 十四山中学校

本校では、校訓「自主・自立」のもと、さまざまな教育活動を行っています。地域・家庭・さまざまな団体のご協力を得て行う行事も多くあります。11月までに実施した各学年の活動や全校での活動の一部を紹介します。

## 各学年の活動

### 福祉実践教室(1年生)



11月に福祉実践教室を行いました。盲導犬講座、車いす講座、手話講座に分かれ、講師の方の話を聞いたり、実体験をしたりすることで、福祉に対する理解を深めることができました。

### 広島研修(2年生)



11月に広島研修に出かけました。原爆の被災地である広島での学びを通して、平和の実現のために自分たちができることや自他の命の尊さなどについて、深く考える機会となりました。

### 修学旅行(3年生)



6月に修学旅行で首都東京に出かけ、諸施設を実際に見聞しました。事前に計画したことが実行できるように仲間と協力して巡り、思い出に残る学習となりました。

## 全校での活動

### 学校保健委員会



5月と10月に学校保健委員会を行いました。「熱中症予防の方法」と「ストレスへの対応のコツ」について考えました。委員会によるロールプレイや養護教諭・スクールカウンセラーの話から、多くのことに気付くことができました。

### 十中タイム



毎週木曜日の給食後には、15分間の学級活動「十中タイム」を行っています。学級の諸問題について話し合ったり、行事に向けて活動を行ったりするなど、どのクラスも級友と交流を深める場となっています。

### 学校祭



9月の学校祭。赤と青のブロックに分かれて、体育祭では、競技や演技で熱い対決を繰り広げました。文化祭では、ブロック合唱や有志発表、生徒会企画、展示作品の鑑賞などを行いました。ブロックの団結はもちろん、学校全体が一つとなる2日間となりました。



## 核兵器廃絶で世界を平和に

十四山中学校 早川 岳輝

### 【原爆ドームをみて感じたこと】

想像よりも大きく、無残な姿でした。原爆ドームは、原爆の恐ろしさを後世に伝えるために残された負の遺産です。熱線と爆風により建物は壊れ、中は丸見えになってしまいました。中には多くの方がいましたが、一瞬にして亡くなりました。戦争の悲惨さを改めて感じとり、もう二度と同じ過ちを繰り返してはならない、という思いがさらに強くなりました。

ガイドの上山さんから、原爆慰霊碑の中からのぞくようにして原爆ドームを見ると、ドームが平和の灯によって燃えているように見えると教えてもらいました。平和の灯は、「核兵器が地上から姿を消すまでともしつづける」といって、1964年8月6日にともされました。しかし、今まで消えることはありませんでした。つまり、これから我々の世代が核兵器を廃絶し、平和の灯を消さなければならないのです。

### 【核兵器禁止条約の批准】

2日間広島に行き、原爆の恐ろしさや平和の大切さについて深く学び、考えました。広島に行く前に、原爆投下について、テレビや教科書で見たり、事前学習で調べたりして知識を付けたつもりでした。しかし、講話や資料館のさまざまな展示物は、自分の知識にないことばかりで、驚きの連続でした。

今から77年前、広島に原子爆弾が落とされました。この1発の爆弾によって、多くの方が焼かれ、爆風で吹き飛ばされました。また、建物が焼失したり、倒壊したりして、当時の広島は見るも無残な状況でした。こんな兵器を地上に残しておいてよいのでしょうか。核兵器は一刻も早く廃絶しなければなりません。

この2日間とこれまでの平和学習を通して、原爆の恐ろしさを学び、世界平和を実現するにはどうしたらいいのかを考えてきました。

僕の考えた方法は、核兵器廃絶です。二度と戦争をしない国として、唯一の被爆国として、核兵器禁止条約を日本も批准すべきだと考えます。

## 平和に向けて学んだ広島研修

十四山中学校 服部 彩

### 【残されたピアノ】

原子爆弾で被害を受けたのは人だけではない。物も被害を受けた。その1つとしてピアノがあり、現在は被爆ピアノとして残っている。被害を受けたピアノの外側は傷だらけ、中にはガラスの破片が散らばっていた。そこで矢川さんがピアノを修理し、残されることとなった。被爆ピアノの音色は滑らかできれいな音を響かせていた。とても被爆してしまったピアノとは思えないほど聴き入ってしまった。矢川さんは戦争について、「戦争は人の命だけでなく人の望みやピアノを弾く楽しみ、希望も奪ってしまう」と言っていた。その言葉を聞いて、自分の楽しいことができなくなることを想像すると、生きる上での大切なことが戦争によってできなくなってしまう辛さを感じる事ができた。

### 【私たちにできること】

実際に原子爆弾が落とされた場所や当時の物や建物、写真、絵などを見て、戦争があったことを実感できた。そして、戦争とは怖いものということしか思い浮かばなかった私にも、資料館の見学やガイドさんの話を聞くことで、私が思っていたよりはるかに恐ろしく、簡単に人の命を奪ってしまうものであることが分かった。

私は、このことを後世に伝えていきたい。また、今からできる行動を考えてみた。写真を撮るときに「ピース」をするが、「ピース」には「平和を祈る」という意味がある。なので、写真を撮るときに「ピース」をすることも1つの行動なのだと思う。このような少しずつの取り組みで平和記念公園にある平和の鐘が表す「世界は一つ」を実現し、核兵器のない平和な世界にしていきたい。

原子爆弾が落とされてしまったことにより今がある。この悲しみが消えることはないが、たくさんの人の思いが詰まった広島は、これからもたくさんの人々に魅力を感じさせる街であると思う。

